

# 「世界中の子どもに教育を」キャンペーン 2009 教員の手引き



## 世界中の子どもたちと一緒に、「読み書き」について考えよう!

今日世界では、7,500万人の子どもたちが学校に通えず、7億7,600万人の成人が読み書きができないと言われています。

一人でも多くの子どもが教育を受けられることを願って、180ヶ国のNGO(民間の国際協力団体)や教職員組合が運営するネットワーク「教育のためのグローバル・キャンペーン」(Global Campaign for Education)では、ユネスコとユニセフの後援のもと、2001年より毎年4月に教育のための世界キャンペーンを行っています。

今年は、世界中の子どもたちと一緒に、「読み書き」(識字)について考えます。昨年のキャンペーンには、日本の小中学校214校から2万5,000人以上の児童・生徒が、世界では880万人以上が参加しました。皆さんもぜひ、世界中の子どもたちの教育を願うキャンペーンにご参加ください!

**キャンペーン期間: 2009年4月20日(月)~4月26日(日)**

## 「世界中の子どもに教育を」キャンペーン 2009

主催: 教育協力NGOネットワーク(JNNE) <途上国で教育協力を行う28のNGOのネットワーク>

実施: 「世界中の子どもに教育を」キャンペーン実行委員会

(構成団体: ACE、オックスファム・ジャパン、シャンティ国際ボランティア会、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、プラン・ジャパン、フリー・ザ・チルドレン・ジャパン、ラオスのこども)

後援: 文部科学省、外務省、国際協力機構(JICA)、(特活)開発教育協会(DEAR)、立教大学ESD研究センター、(財)ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)

### <お問い合わせ・お申し込み先>

(社)シャンティ国際ボランティア会(SVA)内「世界中の子どもに教育をキャンペーン事務局」  
〒160-0015 東京都新宿区大京町31 慈母会館3F TEL:03-5360-1245 FAX:03-5360-1220  
E-mail: [gaw2009@hotmail.co.jp](mailto:gaw2009@hotmail.co.jp) ホームページ: [www.jnne.org/gce2009](http://www.jnne.org/gce2009)

# 1. 授業の参考例(30分間で、教材を使用する場合)

## 授業のねらい

世界の非識字者の現状を知り、文字が読み書きできない原因と問題点について考える。また、すべての人々が文字を読み書きできるようになるためにはどうしたらよいか、意見を出し合う。

授業が始まる前に・・・		
・教材は、授業日の前にあらかじめ掲示して、子どもに見せておく。		
教師	子ども	備考
「これから授業を始めます。」 授業のねらいを確認する。		
<p>■テーマ1「読み書きについて考えよう！」 (ポスター教材1面) 15分</p> <p>・世界の非識字者の数や現状、文字が読み書きできない原因と問題点について考える。</p> <p>【Q1】「世界では、読み書きができない大人はどれくらいいると思いますか？」 1)5人に1人 2)50人に1人 3)500人に1人</p> <p>【Q2】「次のうち、読み書きができる人の割合が一番少ない国はどこでしょう？」 1)ブラジル 2)ネパール 3)エチオピア 4)アフガニスタン 5)ガーナ</p> <p>【Q3】アクティビティ(p.6)のストーリーを読んだ後、「あなたなら、3つの瓶のうち、どれを選びますか？」(ペットボトルに用意した水を飲んでもらうことも可)</p> <p>【Q4】「読み書きができない人が多いのはなぜ？(正解はいくつあるでしょう?)」 1)近くに学校がないから 2)家にお金がないので、働かなくてはいけないから 3)女の子は学校に通う必要がないと言われたから 4)先生の人数が足りないから 5)家で話す言葉と学校で教わる言葉が違うので、勉強についていけないから</p> <p>【追加問題の例】 文字が読み書きできるとどんなことができますか？ また読み書きができないとどんなことができないと思いますか？</p>	<p>ポスター教材の地図を見ながら考える。</p> <p>ポスター教材を見て1つ選ぶ。文字が読めないことを疑似体験する。</p> <p>普段の生活を振り返りながら考える。</p>	<p>【Q1の答え】 補足説明 p.4 I. 1(読み書きができない大人は世界におよそ7億7,600万人います)</p> <p>【Q2の答え】 補足説明 p.4 II. 4(アフガニスタンの識字率は28%) その他の国は、1)90% 2)55% 3)36% 5)64%</p> <p>【Q3の答え】 B(熱冷まし) Aは毒(ネズミ用)、Cは栄養</p> <p>【Q4の答え】 補足説明 p.4-5 III. 5つ(すべて正解) 他の解答例は、戦争があつて学校に通えなかった、親が文字を書けないから教えてもらえない、ノートや教科書が足りないから家で勉強できない、電気がないから暗くなると勉強できない、など</p> <p>【できることの解答例】 補足説明 p.5 IV. 勉強ができる、メールができる、手紙が書ける、本が読める、自分の意見を表現することができる、小説を書ける、インターネットが使える、など</p>

		<p>【できないことの解答例】 本が読めない、地図が読めない、計算ができない、自信を持って行動できない、名前を書けない、など</p>
<p><b>テーマ 1 まとめ</b> 「世界には、大人になっても文字の読み書きができない、学校に通っていても文字が書けない子どもたちがたくさんいます。」</p>		
<p><b>テーマ 2 「僕たち、私たちにできることは何だろう？」</b> (ポスター教材 2 面) 15 分 ・市民が中心となって活動する NGO(非政府組織)と共に活動する子どもの様々な取り組みについて学び、自分たちにできることを考える。</p> <p>「すべての人が読み書きできるようになるには、どうしたらいいでしょうか？」</p> <p>「市民が中心となって活動する NGO と共に活動する子どもたちの取り組みを通じて、私たちにできることを考えてみましょう。」 写真ごとに、子どもが活動している様々な取り組みを説明する。</p> <p>【追加説明の例】 「今日みなさんも参加しているのは、『世界中の子どもに教育を』キャンペーンです。このキャンペーンによって、どんな変化があったと思いますか？」 『世界中の子どもに教育を』キャンペーンの概要とその成果と課題を説明する。</p>	<p>ポスター教材の国内外の子どもの声や写真を通じて、NGO や子どもたちの取り組みを知る。</p>	<p>【海外では】 写真① 自分自身が識字教室で積極的に学び、学んだことを教える子ども 写真② 主体的に大人に識字の重要性を伝える子ども</p> <p>【日本では】 写真③ 世界の現状を通じて識字の意義を再認識し、自分も行動しようと思う子ども 写真④ 市民の意見をまとめ、政府へ提言活動を行う子ども</p> <p>【「世界中の子どもに教育を」キャンペーン】 毎年 100 カ国以上から何百万人もの人々(去年は 880 万人)が参加している。</p> <p>【これまでの成果】 補足説明 p.5 V. 4000 万人以上の子どもが学校に通えるようになった。</p> <p>【まだ残る課題】 補足説明 p.5 VI. すべての人が読み書きできるためには、援助額を倍にすると同時に、一人ひとりが身近にできることに取り組む必要がある。</p>
<p><b>テーマ 2 まとめ</b> 「市民が活動する NGO と協力しながら、子どもも世界が抱える問題に対して行動できます。」</p>		
<p><b>授業のまとめ</b> 「ほぼ 100%の人が文字を読み書きできる日本では、文字が読めないとどんな問題があるかあまり考えることはありません。しかし、文字が読み書きできない背景には、さまざまな問題が潜んでいます。反対に文字が読み書きできれば、一人ひとりの可能性を伸ばし、国全体や世界全体に大きな影響を及ぼす力にもなります。今日、私たちがこの授業で世界の現実を知ったことは、読み書きができない人々の状況を変えるための大きな一歩となります。これで授業を終わります」</p>		

※ 授業の流れはあくまでも参考例です。先生ご自身で組み立ててくださってももちろん結構です。

お願いしたいのは、次の二つのテーマに触れることです。

テーマ 1. 「読み書きができる・できないことって、どんなこと? = 識字の現状と問題」

テーマ 2. 「僕たち・私たちにできることは、何? = 教育支援に向けた市民の行動」

※ ワークシートを同封いたしましたので、ご自由にお使いください。また、授業後に、子どもの感想や先生のご意見をどうぞお送り下さい。ホームページや報告書などでご紹介させていただきます。

※ 保護者の皆さまにもご覧いただけるよう、持ち帰り用学習シートを作成しました。授業の最後に配布していただき、ご活用いただけますと幸いです。

## 2. 補足説明

### I. 識字とは？

「識字」とは、日常生活に必要な「読み・書き・計算」ができる能力のことです。文字を読み書きできないことを非識字、文字は書けても日常生活に必要な読み・書き・計算能力のないことを機能的非識字といいます。現在、成人の5人に1人にあたる7億7,600万人の人々は読み書きができないと言われており、その3分の2は女性です。

読み書きができないと、必要な情報を手に入れられないことで様々な不利益を被るばかりでなく、自分の意思や要求を書面で伝えられず、社会的な権利が大幅に制約されます。そのことが、本人ばかりでなく、国や地域の発展にとっても不利益になるという考えから、識字率は基礎教育の浸透状況を測る指針として、広く使われています。

### II. 世界の識字率

<識字率の低い国>

(アフリカ)		(アジア)					
マリ	23%	チャド	26%	アフガニスタン	28%	バングラデシュ	52%
ブルキナファソ	26%	ギニア	29%	ブータン	54%	パキスタン	54%
ニジェール	30%	エチオピア	36%	ネパール	55%	インド	65%
シエラレオネ	37%	ベナン	40%	ラオス	72%		

出典：ユネスコ EFA Global Monitoring Report 2009(英文)

[www.unesco.org/en/education/efareport/](http://www.unesco.org/en/education/efareport/)

### III. 読み書きができない原因は？

#### 1) 近くに学校がないから

2000年以降に14カ国で小学校の授業料が廃止されたことにより、生徒数が急増しました。しかし、生徒数に対して、十分な数の学校がありません。一番近い学校が何十キロも離れた場所にあると、交通手段が発達していない限り通うことはできません。雨季に道路が冠水したり、通学途中に野生動物や性犯罪といった危険にあうこともあります。

#### 2) 家にお金がないので、働かなくてはならないから

途上国では教育のための予算が少なく、授業料が無料ではない国があります。貧困家庭の子どもたちや孤児は、学費を払えない、家計を助けるために働かなくてはならないなどの理由から、学校に通うことができません。また、学校の教育の質が低いために、「学校に通わせる意味がない」と親が考えている場合もあります。

#### 3) 女の子は学校に通う必要がないと言われたから

途上国の貧困家庭の多くは、女の子より男の子の教育にお金を使います。また、学校内で性的嫌がらせを受けるなどの理由から学校へ行けないこともあります。早すぎる結婚、トイレが男女別に分かれていないこと、女性教員の少なさなどが、さらに女の子から学校を遠ざける要因となっています。こうした理由により、世界の非識字者の3分の2が女性です。

#### 4) 先生の人数が足りないから

多くの途上国では教師の数が足りず、一人の教師が大勢の生徒の面倒をみえています。例えばカンボジアでは平均すると教師一人が50人の生徒を、モザンビークでは67人の生徒を教えています。オックスファム(NGO)が2006年にタンザニア

の農村地域で実施したインタビューでは、ある小学校教員は次のように答えました。「1970年台には1クラスあたりの児童数は45人でした。今は200人を上回ることもあり、授業はまるで集会のようです」。

教員の多くは一般的な公務員より安い賃金で働き、病欠中の賃金や年金といった恩恵を受ける資格がないため、教員の無断欠勤や教員数の減少を引き起こしています。2006年にザンビアのNGOが試算したところ、一世帯あたりに必要な生活費が月410ドルであるのに対し、教員の平均給与は191ドルでした。

また、アフリカでは世界的に蔓延しているエイズにより教師の数が減少しています。タンザニアでは、2000年から2002年の間に教員の42%がエイズ関連で死亡し、大量の教員不足が生じました。

#### 5) 家で話す言葉と学校で教わる言葉が違うので、勉強についていけないから

途上国の中には、偏見のために少数民族が通える場所に学校を建てることを後回しにする国もあります。少数民族の言語で授業を行うことを認めなかったり、現地語を理解する教師が不足していることも多くあります。家で話す言葉と学校で教わる言葉が違うため、勉強についていけず、授業を理解できない生徒は自然と学校から足が遠のくこととなります。

### IV. 文字の読み書きができると？

- ・母親が読み書きできると、5歳未満の乳幼児死亡率が低いという傾向がみられます。
- ・女性の識字率が高いと、女兒の就学率も高いという傾向がみられます。
- ・成人識字率が高いと、小学校5年次まで在学する児童の割合も高いという傾向がみられます。
- ・識字率の高い国は、平均寿命が長く、一人あたりの収入や農業生産性が高いという傾向がみられます。

### V. これまでの成果

「世界中の子どもに教育を」キャンペーンには世界中から毎年数百万人もの人々が参加し、様々な成果をあげています。例えば、昨年度のキャンペーンには全世界で約880万人が参加し、子どもや保護者、教師のほか、大臣や政治家も多数参加し、市民の力をあわせた行動が政府への働きかけとつながりました。

また、このキャンペーンは、各国政府の政策にも影響を及ぼしています。先進国では援助額の増加の動きがみられ、途上国では、14カ国における学費の無料化、女子教育の重視、中途退学した若者・成人向けの教育機会の提供などが政策に反映されています。その結果、4000万人以上の子どもが学校に通えるようになりました。

### VI. まだ残る課題

＜政府の開発援助＞

すべての人が読み書きできるためには1年に1兆円の援助が必要ですが、実際にはその半分の額(4,600億円)しか援助されていません。豊かな国がこの1兆円を国の豊かさに応じて分担したとすると、日本は、1,300億円を援助する必要があります。ところが実際の日本の援助額はわずか300億円です。日本は、学校に行き、読み書きができるための援助を4倍増やす必要があります。

#### ■「世界一大きな授業」で学んだことを子どもがどう生かすのか

募金活動など、目に見える形で支援することだけがこの授業の成果ではありません。今回の授業で「世界の教育問題を知る」という種を蒔いたことで、子どもや先生の行動に何かしらの影響を与えることを期待しています。

### 3. アクティビティの参考例

ポスター教材 1 面に書かれたような識字の問題は、アクティビティを通して学んでいただくこともできます。

◆場面：「お母さんが熱を出した！」

#### 【事前準備】

塩水、砂糖水、普通の水を入れたペットボトルをそれぞれご用意ください。下のラベルを切り、塩水には A のラベル「毒(ネズミ用)」、砂糖水には B のラベル「熱冷まし」、普通の水には C のラベル「栄養」を貼ります。

#### 【ストーリー】

「あなたのお母さんが高熱を出して苦しんでいます。でもこの村にお医者さんはいません。医者のある町には、山道を 1 日歩いた上にバスに 7 時間も乗らなければ辿りつけません。

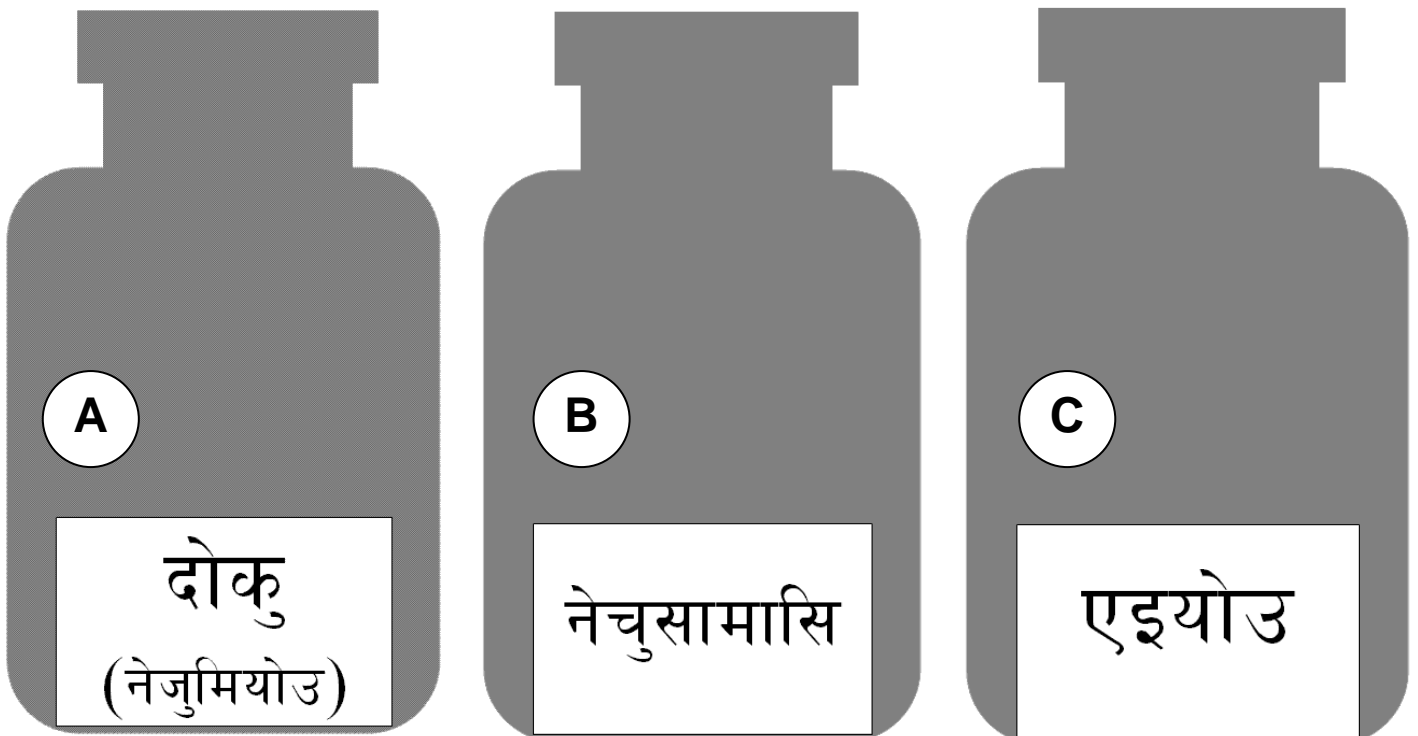
村では学校の先生の家薬が少し置いてあり、困ったときには先生から薬をわけてもらっています。先生の家を訪ねてみると先生は町まで出かけていて留守でした。

戸棚には薬の瓶がいくつかありますが、先生以外は瓶の文字を読めません。いつも熱の出たときに使う薬と同じような瓶が 3 つありましたが区別が付きません。さあ、どうしましょう？」

選んだペットボトルの水を飲んだ結果は…？

◆印刷用のラベル(コピーしてお使いください)

※ネパール・インドで使われている文字を使って、A: 「毒(ネズミ用)」、B: 「熱冷まし」、C: 「栄養」という日本語の発音が書かれています。



## 4. 終了後の手続き

- 実施報告書をお送りください。【締切日：5月11日(月)】  
※写真や感想文は、ホームページや報告書などでご紹介させていただきます。  
※参加人数を証明するため、参加者リストも添付してください。  
(日本語・英語いずれも可。イニシャルや苗字のみで大丈夫です。)
- ポスター教材や映像教材(PC用DVD)は返却不要です。引き続き、ご活用ください。
- キャンペーン事務局より、2009年7月に参加証(クラスごと)をお送りします。世界中でのキャンペーン参加人数を報告する報告書(各校1枚)もお送りします。

### ◆880万人が参加した昨年のキャンペーン



インドネシア



イギリス



モザンビーク

## 「世界中の子どもに教育を」キャンペーン実行委員会の構成団体(NGO)

これらの団体は、市民の立場から途上国における教育支援を行っています。また、国内では、募金受付、事務局訪問受け入れ、講師派遣、教材・資料の貸し出しをはじめ、多彩に機会を設け、みなさんの参加を呼びかけています。

団体	主な活動	学校向け教材
 <p>(特活)ACE 03-3835-7555 <a href="http://acejapan.org/">http://acejapan.org/</a></p>	<p>すべての子どもが希望を持って暮らせる社会を目指し、「児童労働」の撤廃と予防に取り組んでいます。チョコやサッカーボールなど身近なモノを通じて児童労働を伝える活動や、インド・ガーナの子ども支援を行っています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おいしいチョコレートの真実」教材&amp;DVD(販売)</li> <li>・児童労働写真パネル(貸出)</li> <li>・サッカーボール縫い体験キット(貸出)</li> </ul>
 <p>(特活)オックスファム・ジャパン 03-3834-1556 <a href="http://www.oxfam.jp/">http://www.oxfam.jp/</a></p>	<p>オックスファムは世界 100 か国以上で、貧困から立ち上がる人々を支援し、貧困の根本的な解決を目指し活動する国際協力団体です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンガーバンケット(世界の食料格差を体感するワークショップ型ゲーム)ほか</li> <li>・写真展リレー(パネル貸出:無料)</li> <li>・英語で学ぼう 世界の貧困</li> </ul>
 <p>(社)シャンティ国際ボランティア会 03-5360-1233 <a href="http://www.sva.or.jp/">http://www.sva.or.jp/</a></p>	<p>アフガニスタン、カンボジア、ラオス、タイ、ミャンマー(ビルマ)難民キャンプで、おはなし、出版などの図書館活動と学校建設を中心とした教育・文化支援活動を行っています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援活動パネル(貸出)</li> <li>・タイ、ラオス、ミャンマー(ビルマ)難民キャンプでの支援活動ビデオ(貸出)</li> </ul>
 <p>(社)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 03-3516-8932 <a href="http://www.savechildren.or.jp/">http://www.savechildren.or.jp/</a></p>	<p>子どもの権利の実現を目指し、世界 120 か国以上で子どものための支援活動を展開しています。国内では、日本の子どものための教育事業“Speaking Out～みんなで一緒にほなそう～”を実施しています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加型学習プログラムの実施(総合学習の授業の一環や修学旅行の事務所訪問時に)</li> <li>・世界の子どもの問題や国際協力活動を知るための教材貸出</li> </ul>
 <p>(財)日本フォスター・プラン協会(プラン・ジャパン) 03-5481-0030 <a href="http://www.plan-japan.org/">http://www.plan-japan.org/</a></p>	<p>途上国 49 か国の子どもたちとともに地域開発を進める国際 NGO。途上国の子どもを手紙で応援するプラン・スポンサーシップが活動の基盤です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども向けウェブサイト</li> <li>・子ども用冊子(無料)</li> <li>・世界の国ボックス(貸出)</li> <li>・子どもが描いた絵画エッセイ</li> <li>・子どもが作った映像</li> </ul>
 <p>(特活)フリー・ザ・チルドレン・ジャパン 03-3835-0221 <a href="http://www.ftcj.com/">http://www.ftcj.com/</a></p>	<p>子どもが主体的に活動することを大切にしています。つまり、「子どもが子どもを支援する」国際協力を合言葉に活動しています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーシップトレーニング講座</li> <li>・子ども活動応援ウェブサイト</li> <li>・[はじめの一步]活動を始めるための7ステップ!</li> <li>・「児童労働ゲーム」ほか貸出</li> <li>・子ども向け書籍</li> </ul>
 <p>(特活)ラオスのこども 03-3755-1603 <a href="http://deknoylao.org">http://deknoylao.org</a></p>	<p>ラオスの人々の絵本、紙芝居などの作品作りを応援し、小学校などに届けています。日本では、日本の絵本にラオス語を貼り、ラオスに送るボランティア活動に多くの人々が参加しています。</p>	<p>日本の絵本にラオス語の翻訳を貼ってラオスに送りませんか。貼った人のサイン入り絵本が子どもたちに楽しく読まれます。</p>

世界中の子どもに教育を！ Education for All